

令和3年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修 実施要項

1 目的

子どもたちの健やかな成長のためには、幼い頃から芸術・文化に触れることが重要であり、鑑賞教育は重要な教育活動とされている。このような鑑賞教育の重要性を踏まえ、全国の小・中・高等学校等の教員と美術館の学芸員などが一堂に会してグループ討議等を行うことにより、美術館を活用した鑑賞教育の充実及び学校と美術館の一層の連携を図るため、本研修を実施する。受講者は研修終了後、各地域等の実情に応じて、本研修の成果を普及・還元し、鑑賞教育の一層の充実を図ることが期待される。

2 主催 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という）

3 共催 文化庁

4 期間 令和3年11月29日（月）《各会場での実地研修》
令和3年12月5日（日）《職場や自宅からPCを利用したのオンライン研修》
※研修は上記2日間の全てのプログラムに参加することが必要。

5 会場 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、令和3年度は会場での実地研修（1日）、オンライン研修（1日）とする。但し、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等が、全国のいずれかの場所に発出され、1日目の実地研修を行うことが難しいという判断に至った場合は、中止や半日程度のオンライン研修に切り替える可能性がある。
また、参加会場の希望は「質問票」（別紙2）に記入すること。※会場館の受入人数の都合上、本人の希望通りにならない可能性がある。

○東京国立近代美術館

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1

URL : <https://www.momat.go.jp>

○国立工芸館

〒920-0963 石川県金沢市出羽町 3-2

URL : <https://www.momat.go.jp/cg/>

○京都国立近代美術館

〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 26-1

URL : <https://www.momak.go.jp>

○国立国際美術館

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 4-2-55

URL : <https://www.nmao.go.jp>

6 受講者

(1) 対象：受講対象者は、次の各号に掲げる者とする。

①小・中・高等学校教員（国公立校の教員）【教員経験年数通算5年以上】

②美術館学芸員【学芸員経験年数通算1年以上】

③指導主事

*【 】内の経験年数は申込時の年数とする。

*本研修は、図画工作や美術の鑑賞教育普及関連事業に携わった経験を有し、指導的立場にある者を対象者とする。

*すでに本研修を受講した者であっても、各都道府県及び各政令指定都市教育委員会が特に必要と認める場合は受講対象者としてすることができる。

*非常勤職員の推薦は可能。ただし、国立美術館において受講者を決定する際には、原則として常勤職員を優先する。

*オンライン研修の参加にあたっては、通信環境が整っていることを申込条件とする。

(オンライン研修はCiscoWebexやZoom等のオンラインツールを利用予定。詳細は受講決定後に通知する。)

また、受講者側のパソコン設定や通信環境等に係る技術的なサポートは主催者側で行わない。

(2) 募集人員：90名	内訳：東京国立近代美術館	40名
	国立工芸館	10名
	京都国立近代美術館	20名
	国立国際美術館	20名

(3) 申込方法：各都道府県及び各政令指定都市教育委員会が受講希望者を取りまとめ、国立美術館へ推薦する。推薦できる人数は教員2名、学芸員又は指導主事2名を上限とし、推薦順位を名簿に記入する。

(4) 提出書類：「推薦名簿」(別紙1)、受講希望者が記入する「質問票」(別紙2)

(5) 申込期間：令和3年7月19日(月)～7月27日(火)

(6) 受講者の決定：各都道府県並びに各政令指定都市の教育委員会からの推薦に基づき、国立美術館が決定し通知する。

なお、募集人員を上回る場合には、国立美術館において人員調整を行う。

7 その他

(1) 研修終了後、各地域等の実情に応じて、本研修の成果を普及・還元し、美術館を活用した鑑賞教育の一層の充実を図ることが期待される。

(2) 所定の研修を修了した者には、修了証書を授与する。

※全てのプログラムに参加し、研修終了後にアンケートを提出した者に授与する。

(3) 参加費無料。ただし参加に係る旅費・宿泊費、またオンライン研修にかかる通信費等は受講者側の負担とする。

(4) 宿泊については、受講者各自で手配すること。

(5) 令和4年度の指導者研修は詳細が決まり次第、HPで周知する。